

第 24 回 最上川水系流域委員会 議事概要

日時：令和元年 11 月 13 日（水） 14:00～16:30

場所：山形県自治会館 会議室 401 号

- ：委員からの質問・意見
- ：事務局からの説明・回答（国）
- ：事務局からの説明・回答（県）

議事 1：最上川総合水系環境整備事業の再評価について

（委員長）

- 環境整備事業実施後のモニタリングの具体的方法について教えてほしい。
- 利用者数のカウント方法について教えてほしい。
- 河川空間利用実態調査により季節ごと、休日と平日に分けて集計している。

（委員）

- 流域でサイクリングロードをつなげる等、自転車専用道路と合わせて、長期的な視点で整備していただきたい。

（副委員長）

- 寒河江のかわまち事業は JR と連携する方策はないか。
- 今のところ予定は無いが、寒河江地区かわまちづくり協議会へ伝える。

（委員）

- 支障木は全て伐採するのではなく、鳥や水生生物、景観に配慮した施工をしてほしい。
- 伐採前に野鳥の会に意見をいただきながら、環境に配慮し伐採する。

（委員）

- かわまちの看板類は日本語以外についても表記するのはいかがか。
- 現在は日本語表記のみなので、寒河江地区かわまちづくり協議会と検討していく。

（委員）

- 河道内の人工的な攪乱も必要ではないか。

(委員)

- レッドデータブックを参考に流域内の生物種の低減について配慮し整備してほしい。
- レッドデータブックを参考に検討する。

(委員)

- かわまちに代表される親水区間について安全、安心を確保するのはもちろん、常時人員を配置して遊びをサポートしてほしい。

(委員)

- 内水面漁業被害として、「カワウ」と「ブラックバス」による膨大な被害が出ている。生息観環境に配慮した施工でお願いしたい。

(委員)

- 公募伐採の実績について教えて欲しい。
- 昨年度 50 区画で募集し、49 区画で伐採済である。今年度は 55 区画で募集し、現時点で 29 区画の伐採予定となっている。

(委員)

- 環境整備事業の実施箇所が公平性の面からみて偏っているのではないか。
- かわまち事業は市町村が申請して登録を受ける。計画の整備内容によって市町村側も費用負担することになるので、申請が難しい市町村もあると思う。
- 積極的な PR 活動をしていただきたい。

(副委員長)

- 環境整備事業を実施するのはいいが、メンテナンスが大変ではないか。
- 整備主体がメンテナンスすることが基本となっている。
- 市町村を含めた全体の維持管理費を教えてください。
- 現時点で持ちあわせていない。

議事 2：最上川上流特定構造物改築事業について

(委員)

- 大旦川排水機場のような重要な施設は安全度高めにすることが必要。他の箇所もトラブルがあっても短時間で解消できるような構造や配置を考えるのがポイントとなる。今回の大旦川についても越水等があっても大丈夫な工夫を考えてもらいたい。
- 地整管内の施設において、水が入らない様にする耐水対策を予定している例もあるので、今後検討していく。

(委員)

- 調整池とはどんな役割で、普段はどのように使われているか。
- 切り欠きを作って一時的に流量を調整する。土地利用方法は決まっていない。

情報提供について

(委員)

- 県内の想定最大規模降雨に対応した浸水想定区域図の作成状況について教えてほしい。
- 管理している 554 河川の内、洪水予報河川が 6、水位周知河川 64 である。計 70 河川の内、65 の河川で整備済である。
- 山形県は整備率が高いようなので、洪水に強い県としてアピールしてはいかがか。

(委員)

- 水防災学習プログラムの内容について教えてほしい。
- 教員が授業で実施する内容の参考となる資料であり、ホームページでも確認できる。

(委員)

- 「リエゾン」という言葉に馴染みがない。どんな仕事をしているのかわかりにくい。
- 災害時に地方自治体の状況を国へ報告し、行政を連携させる役割が主である。

(副委員長)

- 避難勧告が出ても避難しない実態があるか、よい方法はないか。
- 災害の程度を一般にも分かりやすくレベル表示にした。防災教育を受けた孫に促されることより高齢者の避難につながることを期待している。また、まるごと町ごとハザードマップにより避難経路等を具体的に示している地区も有る。

(委員)

- 県内のダムで緊急放流、事前放流の実績は有るか。
- 直轄のダムでは無し。事前放流は利水者と調整中の段階である。
- 国と同じ。

(委員長)

- 危機管理水位計が流された話を聞くが、県内ではどんな状況か。
- 水没や流出により全く計測できなかったということは無かったが、データが一時的に表示されないという課題があり、原因を調査中である。また、HP（河川情報センターが運営）へのアクセスが集中し、水位が見られない状況もあった。

審議結果について

1. 最上川総合水系環境整備事業（再評価）について

○事業の継続は妥当と判断する。

2. 最上川上流特定構造物改築事業（事後評価）について

○改善措置及び今後の事業評価の必要はない。

●審議内容は後日開催する事業評価監視委員会に報告する。

以上